

## &lt; 水田放牧に取り組む事例 &gt;

## できることは自分で、負担の大きい作業は共同で

## 1．集落協定の概要

市町村・協定名	はぎし のとる 山口県萩市 野戸呂			
協定面積 12.8ha	田 (100%) 水稲、飼料作物	畑	草地	採草放牧地
交付金額 222万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員等手当	農業生産活動経費	1%
		鳥獣害管理費	農用地管理費	3%
		(積立金)		21%
				23%
				2%
	農業者 13人、	1法人 (構成員89人)		開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	有			

## 2．取組に至る経緯

当集落は、山裾に走る県道の 1.5 km間の片側に開ける不整形で狭小な農地であったが、昭和 61 年に圃場整備による基盤整備が完了した。

営農は個々で、農地、農業用施設の維持管理については各水利組合等の農業者により行われていたが、高低差のある農地や畦畔の維持管理には労力を要していた。

若者の修学・就職などの転出による高齢化が進む中、労力・資金ともに不安を抱えたまま営農を継続していた頃、中山間地域等直接支払制度が始まり、平成 12 年度から集落全域で協定を締結し、制度に取り組むこととなった。第 2 期対策からは、平成 19 年 3 月に設立された (農)かわかみ (経営面積：27.9ha) も協定に参加している。

## 3．取組の内容

中山間地の農業の最大の課題である有害鳥獣対策として有害鳥獣恒久防護柵や電気柵の設置を行うとともに、鳥獣被害の多いほ場については、耕畜連携による水田放牧に取り組んでいる。

また、農業用施設維持管理向上のため、農道の舗装を実施してきた。

第 2 期以降は、高齢化や後継者不足による集落内の農地の荒廃を防ぐため、担い手への農作業委託及び法人への利用集積を進めている。



【防護柵の設置】



【耕畜連携による水田放牧】

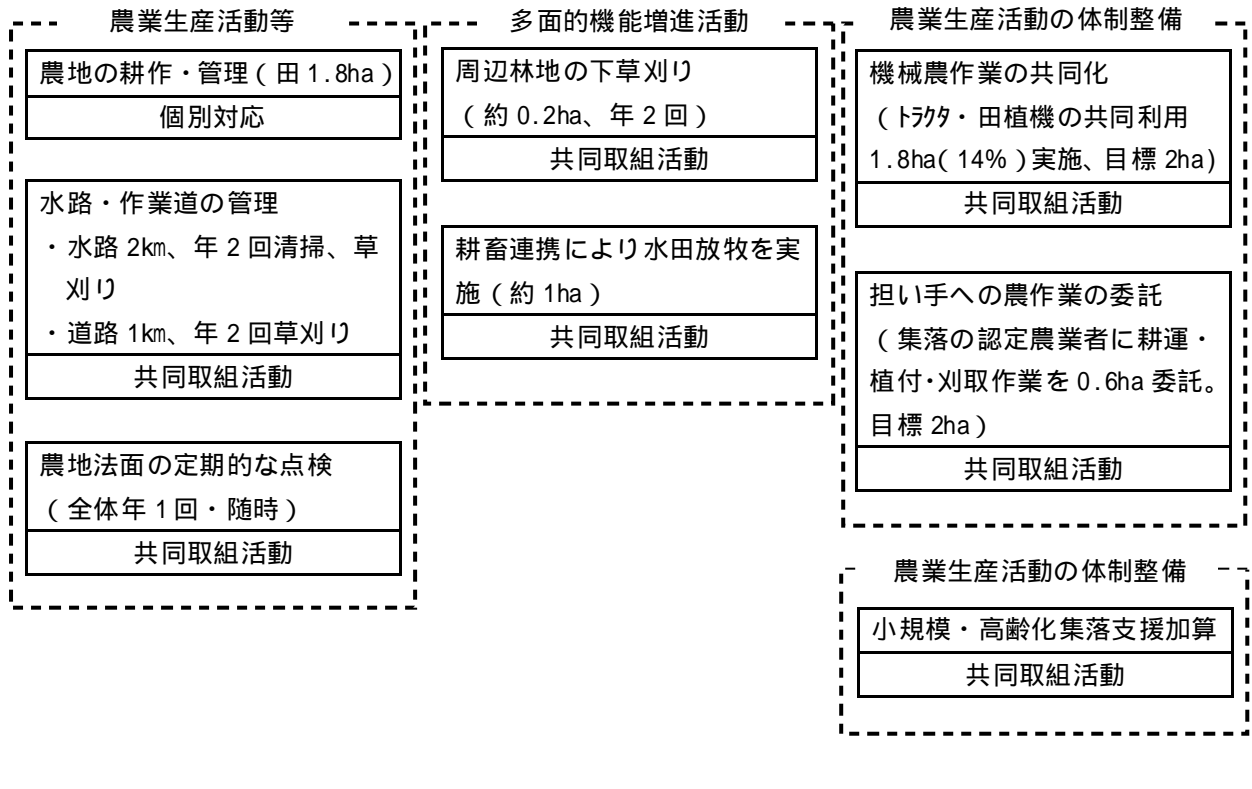
[ 集落の将来像 ]

第3期の協定期間が平成26年度で終了するにあたり、次期については高齢化の加速と担い手不足から農業法人による農地の集約化が進み、最低限の協定参加者数となることが予測されるところであるが、共同での活動により支えあいながら農地・営農を守っていきたい。



[ 将来像を実現するための活動目標 ]

共同で支えあい営農を持続可能にする。



4 . 今後の課題等

協定参加者の高齢化が進み、営農活動が年々困難な状況

集落での話し合いを活発化させ、将来ビジョンを皆で検討する必要

[ 第2期対策の主な成果 ]

水田放牧による耕作放棄地の発生防止